

2020年03月03日 2面

文字サイズ 小 中 大 [ブックマーク](#) [印刷](#) 

## 建災防／3社にコスモス認定証交付

建災防の田中正晴専務理事〈右〉  
永澤代表取締役建災防の田中正晴専務理事〈右〉  
と桑原支店長建災防の田中正晴専務理事〈右〉  
と中川社長

梅林秀伍社長)のコスモス認定を更新する。この結果、認定を取得している建設事業場は134件(110社)、適用事業場は303カ所となる。

建設業労働災害防止協会(建災防)は2月26日、建設業労働安全衛生マネジメントシステム(コスモス)の認定証を二(日の下に立)耕機(名古屋市中区、中川崇社長)、大林道路四国支店(支店長・桑原豊執行役員)、鳳志興業(青森市、永澤利昌代表取締役)に交付した。二(日の下に立)耕機、大林道路四国支店はニューコスモス、鳳志興業は中小規模建設事業場向けのコンパクトコスモスの認定となる。

3社が運用する労働安全衛生マネジメントシステムがコスモスガイドラインの認定基準を満たすことを確認した。交付式後に3社は記者会見した。二(日の下に立)耕機は浄水場・排水機場などの工事を行っており、中川社長は「造られた年、地域性によって(現在の)気象条件では長所と欠点がある。(安全対策は)全社統一でやることと、確実な安全対策を現場単位でやらないといけない」と認定取得に至った経緯を説明した。

大林道路の桑原支店長は、コスモス認定のメリットに関し、安全対策の標準化に加えて、「危険を排除し良好な職場環境を構築するため」と担い手確保の効果を挙げた。認定取得を踏まえ、現場のリスクアセスメントと、心身の健康増進を促す取り組みをさらに強化する考えも示した。鳳志興業の永澤代表取締役は「若い人になぜ安全の手続きが必要か分かってもらうのに役立つ」とコスモス認定の効果を説明した。その上で「(安全対策を)ブラッシュアップする。(認定取得は)日本の建設会社の元気につながると思う」と語った。

建災防は、こぶし建設(北海道岩見沢市、永田隆一社長)、小国開発(山形県小国町、柿崎清代表取締役)、タカヤ(盛岡市、望月光雄社長)、梅林建設(大分市、

閉じる

記事ID: 3202003030210

Copyright(C) 日刊建設工業新聞 記事の無断転用を禁じます